

報告書

京都市の芸術家等の
活動状況に関する
アンケート調査結果について
〔概要版〕



京都市の芸術家等の活動状況に関する アンケート調査について

京都市では、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、京都市内で活動する文化芸術に関わる人々や団体・事業所が置かれている状況、並びに活動を再開し、持続するためのニーズを明らかにすることを目的に、アンケート調査を実施しました。美術、音楽、演劇、舞踊、伝統芸能、生活文化など幅広い分野と、創作発表をする表現者、教育研究、技術提供など多様な業務形態の方々から回答が寄せられました。

アンケート結果からは、9割を超える個人、団体・事業所が感染症の影響による公演、展示、イベント等の延期又は中止を経験していること、その収入損失は、個人では1人あたりの平均値が88万2千円、団体・事業所では1団体あたりの平均値が364万5千円、回答金額の合計は個人で8億9千万円、団体・事業所の合計は8億7千万円となりました。これは今回の回答(個人:1,122件、団体・事業所:280件)だけでの金額であり、実際には更に大きな経済的損失が発生していると考えられます。

収入に損失が生じたことで、個人では「制作・発表の活動費」、団体・事業所では「文化芸術に関する制作費・事業費・委託費」に充てられない、という活動の継続が困難となっていることが分かる一方で、個人では「食費や日用品費」の支払いが困難という回答も多いなど、芸術活動を専業にしている方が多い分野では影響が芸術活動のみならず、生活の維持にまで及んでいることが分かります。

現在困っていることについては、個人では「創作発表の機会が失われた」が最も多く、次に「生計が立てられない」「職務研修や技芸の指導・研鑽ができない」と続きます。団体・事業所では「公演や展覧会、イベント等の延期や中止による損失」が最も多く、次に「経営の見通しが立てられない」と続きます。また、必要とする支援については、個人、団体・事業所とも「損失の補填」が最も多く、「再開・新規展開に向けた資金支援」、「文化芸術活動を活かした機会・場づくり」や「オンライン展開のための支援」が続くなど、資金面と活動継続のための環境整備の両面での支援の必要性が浮き彫りとなりました。

こうした多くの切実な声を受け止め、文化芸術都市・京都として、ウィズコロナ社会での新たな表現や鑑賞方法に挑戦する文化芸術関係者を後押しするため、今後の施策を検討し、継続的に文化芸術活動を支援します。

調査概要

回答期間	2020年5月7日～5月20日(14日間)
調査実施者	京都市(実施受託:京都芸術センター〈公益財団法人京都市芸術文化協会〉)
調査対象	①京都市内に居住あるいは拠点をもつ芸術家及び文化芸術を支える個人 ②京都市を拠点または市内で活動をする文化芸術活動に関わる団体・事業所
調査方法	インターネット調査(一部、郵送調査)
回答数	個人1,184件、団体・事業所292件
有効回答数	個人1,122件、団体・事業所280件 ※居住(所在地)、制作の場所、活動・発表場所のうち、いずれかが京都府内の回答
調査設計・分析協力	大澤寅雄(ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員、NPO法人アートNPOリンク理事) 樋口貞幸(大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員)、中川眞(大阪市立大学都市研究プラザ特任教授) 吉澤弥生(共立女子大学文芸学部教授)
報告書発行	京都市、京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)

ポイント

POINT

1

ほぼすべての回答者が、新型コロナウイルスの影響により「公演や展示等の延期または中止」を経験し、個人では平均88万2千円、団体・事業所では平均364万5千円の損失。これらの損失は「創作・発表の活動費」、「事務所、施設等の管理費や維持費」、「食費や日用品費」の支払い等へ影響を及ぼしている。

POINT

2

現在困っていることとして、「創作発表の機会が失われた」という回答は910件に及ぶ(81.1%)。「生計が立てられない」と回答した人も5割を超えるなど切実な状況。

POINT

3

必要な支援として「損失の補填」が最も多い一方、「活動の再開に向けた事業資金支援」、「文化芸術活動を生かした機会・場づくり」、「オンライン展開のための支援」、またそれらを相談し、情報提供を求める先のニーズも高く、包括的な支援が求められている。

POINT

4

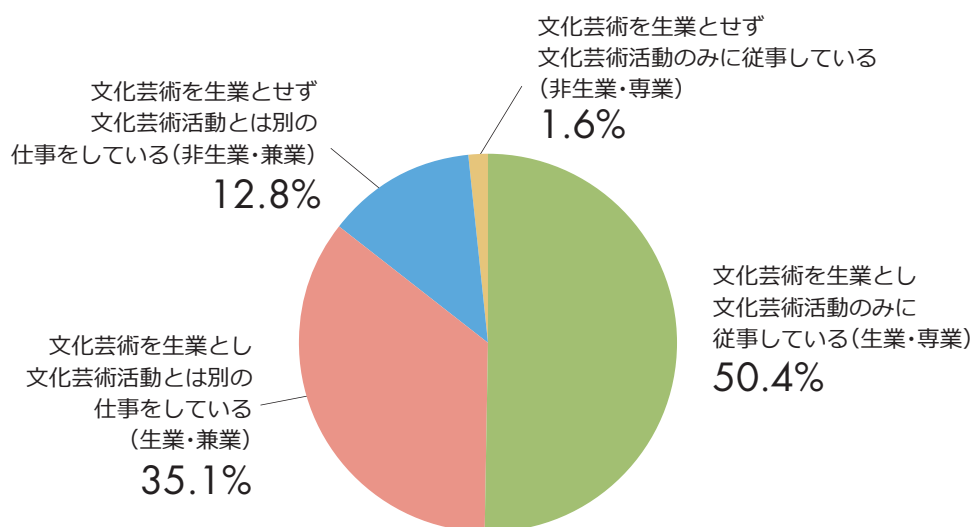
自由回答では、今回の緊急奨励金が活動継続の後押しになったという声が多かったものの、依然として厳しい状況であることを訴える回答も多く見られ、継続的な支援、活動環境の整備が必要である。

はじめに

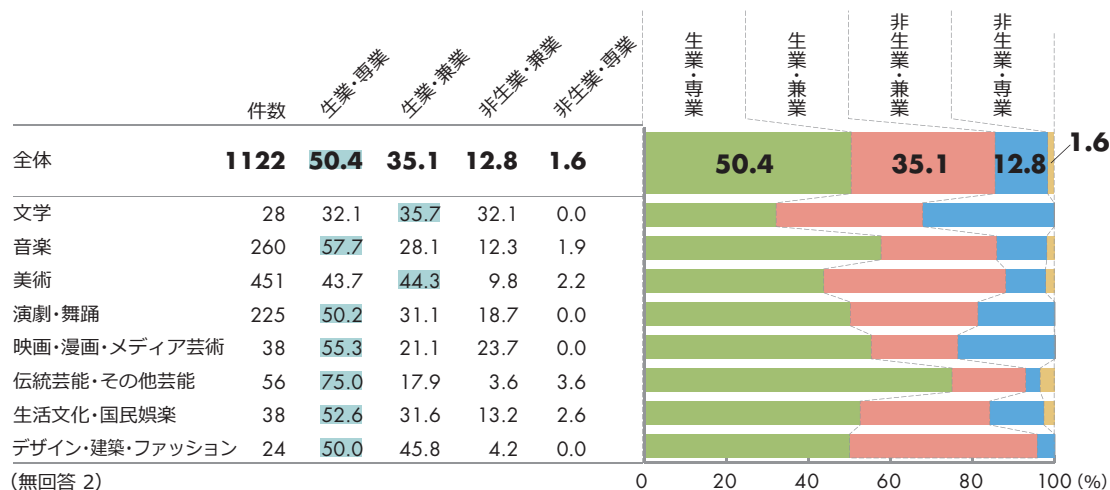
「生業／非生業」と「専業／兼業」

本アンケート調査が京都市文化芸術緊急奨励金の募集と同時期に行われ、新型コロナウイルス感染症による活動の影響を問うことを目的としたものであったことから、**文化芸術を生業とし、かつ文化芸術活動のみに従事する人(生業であり専業)**が回答者の5割を占めた。分野ごとでみると「伝統芸能・その他芸能分野」は75%が専業で最も高い。

生業・非生業と専業・兼業



生業・非生業と専業・兼業の表現分野(8分類)



サマリー

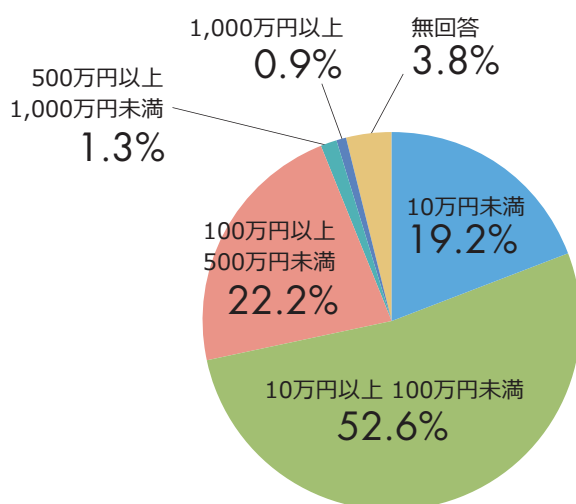
POINT 1 新型コロナウイルスの影響と経済的損失

個人では平均88万2千円、団体・事業所では平均364万5千円の損失があった。**回答金額の合計は個人で8億9千万円、団体・事業所の合計は8億7千万円。**これは今回の回答(個人: 1,112件 団体・事業所:280件)だけの金額であり、実際には更に大きな経済的損失が発生していると考えられる。月ごとにみると4月が最も高い。これらの損失は、個人では創作発表の活動費、道具等の購入費、食費や日用品費に、団体・事業所では事業費、事業所・施設の管理費や維持費、設備等の購入費に影響を及ぼしている。

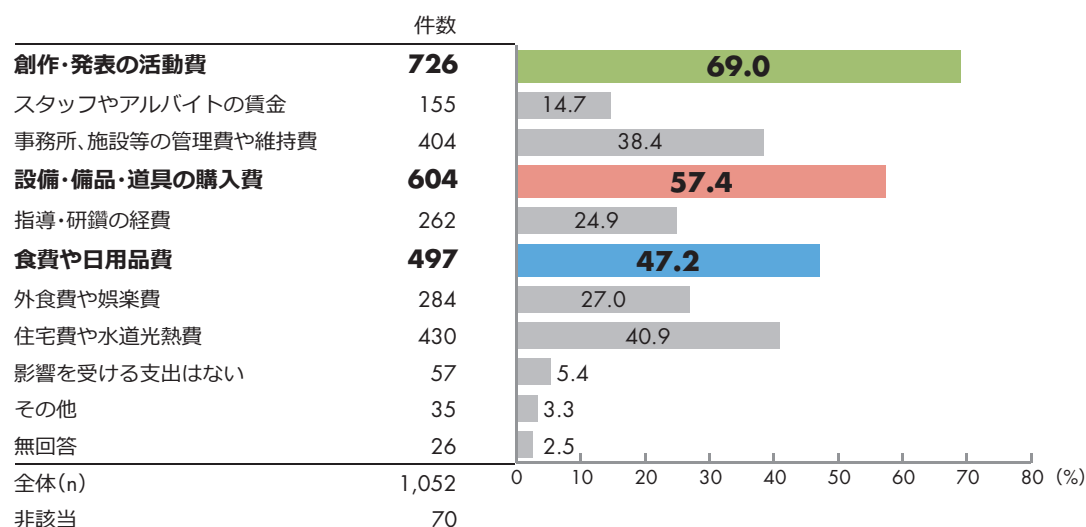
個人

収入損失の計

	額(円)
合計	892,954,903
平均	882,367
最大値	26,500,000
最小値	0
全体(件)	1,012
無回答(件)	40
非該当(件)	70



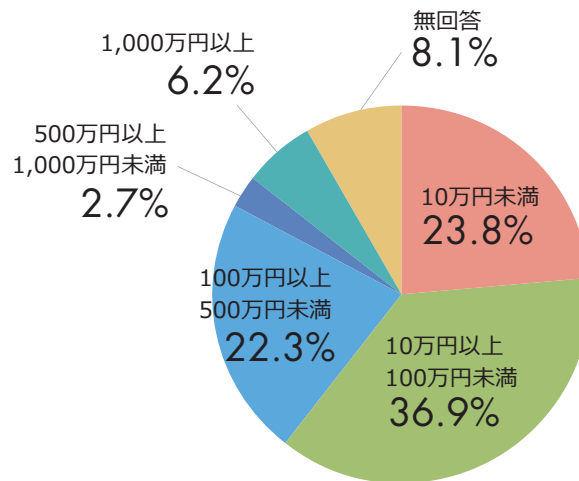
支払いに影響のある経費



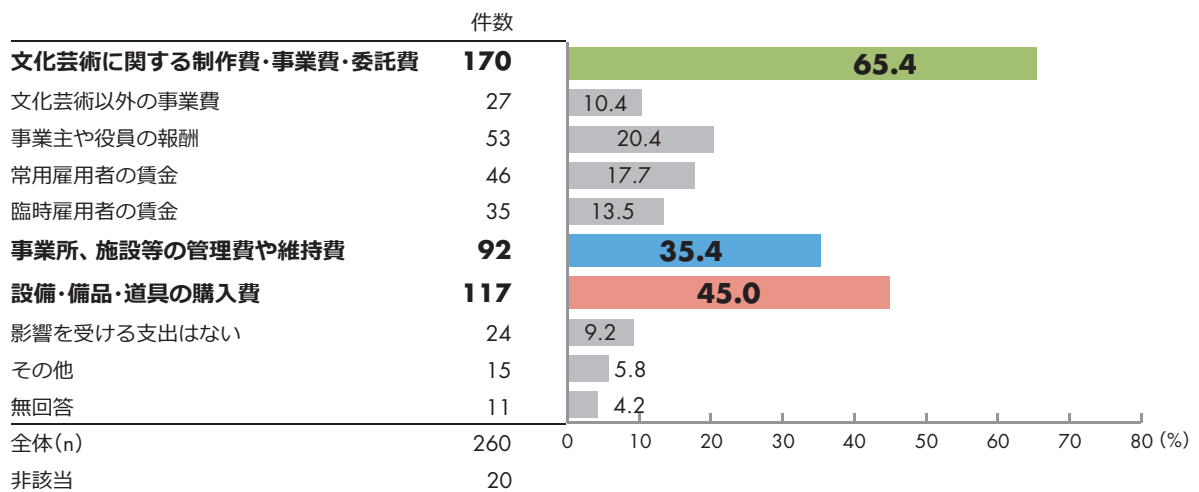
団 体

収入損失の計

	額(円)
合計	871,180,211
平均	3,645,105
最大値	298,000,000
最小値	0
全体(件)	239
無回答(件)	21
非該当(件)	20



支払いに影響のある経費

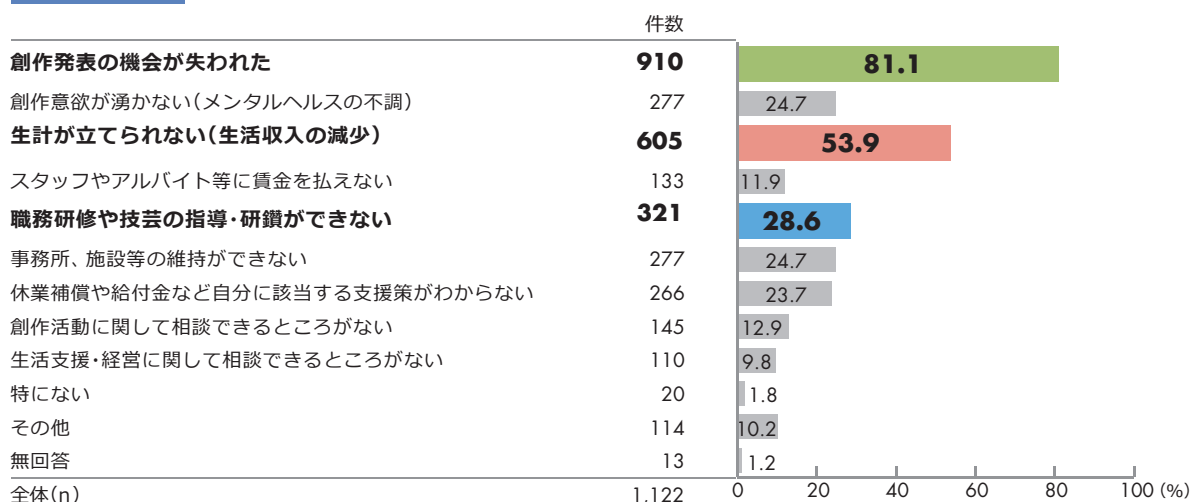


POINT 2 現在困っていること

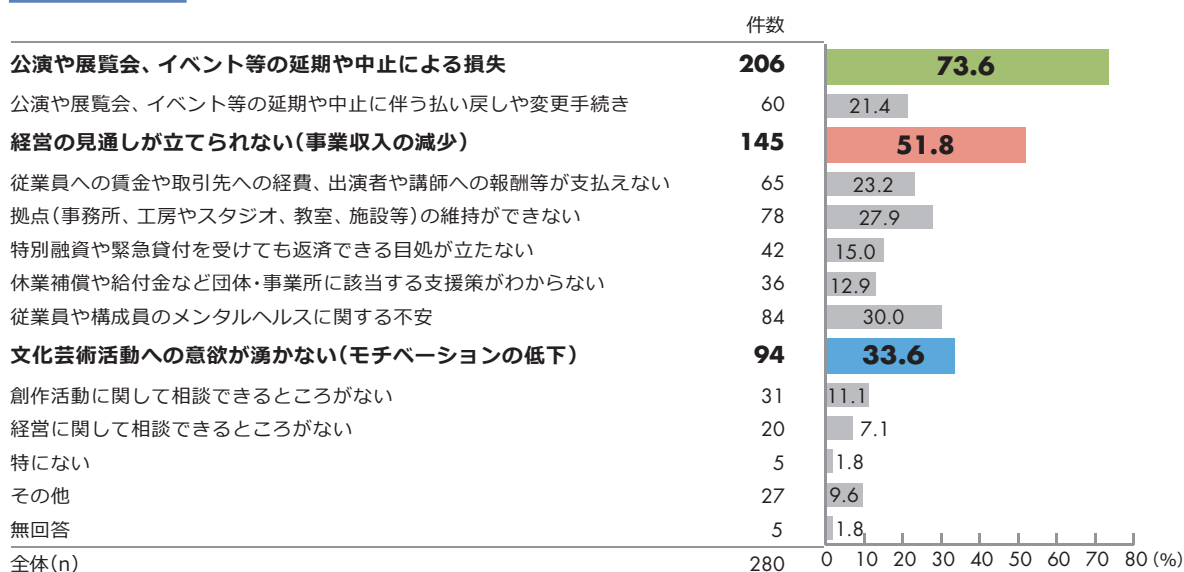
個人では「創作発表の機会が失われた」という回答が910件に及ぶ(81.1%)。「生計が立てられない」と回答した人も5割を超えるなど切実な状況。団体・施設でも「公演や展覧会、イベント等の延期や中止による損失」が7割、「経営の見通しが立てられない」が5割を超えるなど厳しい状況。個人、団体等ともに「文化芸術活動へのモチベーションの低下」というメンタルヘルスの不調から「事務所、施設等の維持ができない」というハード面の不安まで様々な面で困っていることが分かる。

現在困っていること(複数回答)

個人



団体



POINT 3 文化芸術活動に必要な支援

必要な支援として「損失の補填」が最も多い(個人53.7%、団体等51.8%)一方、「活動の再開に向けた事業資金支援」(同43.9%、37.1%)、「文化芸術活動を生かした機会・場づくり」(同35.7%、32.9%)、「オンライン展開のための支援」(同32.4%、29.6%)も回答比率が高い。また、「支援策に関する相談・情報提供」、「文化芸術活動に関する情報発信、周知・啓発、提言」など、相談先や情報発信に関するニーズも高く、包括的な支援が求められている。

必要な支援(3つまでの複数回答)

個人



団体



POINT 4 自由回答から

自由回答では、今回の緊急奨励金が活動継続の後押しになったという声が多かったものの、依然として厳しい状況であることを訴える回答も多く見られ、継続的な支援、活動環境の整備が必要である。

現状について

実演家のみならず、舞台に携わる裏方さん達の収入も皆無であろうと思われます。舞台・照明・音響さんが(中略)残れなければ、今後の舞台活動に支障をきたすと思います。(伝統芸能／創作発表)

コロナ禍において芸術の役割がわからなくなる。(生活文化／創作発表)

わたしの住む京都からこのような奨励金制度が設けられ、制作者としても信頼して応募できました。他の給付金と比較してもスムーズな実施でありがたい。(美術／技術提供)

今回の奨励事業は大変ありがたいです。現在は生活することだけでも大変ですが、こういった助成があると創作への意欲が増します。(美術／創作発表)

歌やピアノのレッスンはオンラインでは音響的に限界があるため、新たなスタイルを模索中。(音楽／教育研究)

支援策や新しい動向など、情報が多すぎて対処しきれず、何が正しいのか分からない。(美術／企画制作)

演劇はその特性から人が集まらなないと制作できず、停止状態に陥っている。その中でできることを模索している。(演劇・舞踊／施設運営)

4月以降、昨年比較で95%以上の売り上げが減少している。このままでは会社の維持もおぼつかない。(デザイン・建築・ファッション／技術提供)

支援策について

何か業界全体として、アーティストの支援体制、セーフティネットが必要。(伝統芸能／創作発表)

オンラインでも伝えていけるようになるための(IT)技術的知識の勉強の機会。(音楽／創作発表)

適切な専門家や部局につないでもらうことのできる相談窓口がほしい。(美術／施設運営)

公演場所の提供、稽古場の開放など。(演劇・舞踊／創作発表)

京都市文化芸術活動緊急奨励金は素晴らしい制度だと思います。ぜひ今後も状況に応じた支援を継続いただけましたら幸いです。(演劇・舞踊／創作発表)

早急にオンラインの表現活動によって各アーティストが十分な収益を上げることが可能な環境を作ることが大事かと思います。そうした支援があれば皆助かるのでは。(音楽／創作発表)

オンライン上で情報交換、新企画を話し合えるような場があればよい。(伝統芸能・その他芸能／創作発表)

感染症対策として、専門家と協力し、イベントなど人が集まる際の人数や距離、対策など具体的に数値化して欲しい。(伝統芸能／創作発表)

今までやってきた事が出来ない現状は、新しいことを始めるしかない状況でもあります。新しい活動の為の経済的支援と今後新しい発表の仕方へのサポートを求めます。また、発表や制作の情報シェアも求めます。そうして連鎖的にいいアイデアが生まれ続ける環境が維持されることを望みます。(演劇・舞踊／創作発表)

経済、教育、文化を中心に社会活動が停止したことは大きな損失を伴うので、こういうときこそ行政のサポートが必要だと期待する。京都には本当に多くの世界に誇れる文化があると思うので、それを守ることは京都の大きな使命であると思います。(中略)京都の文化を今こそ守ってください。ご支援を期待していますし、こちらとしてもご支援にお応えしたいと思います。(演劇／企画制作)

その他

アーティスト・テクニカル・マネジメントスタッフの支払いについて、現地調査費等、準備期間に対する支払いが補償される契約への要望が増えるのではないかと。(美術／企画制作)

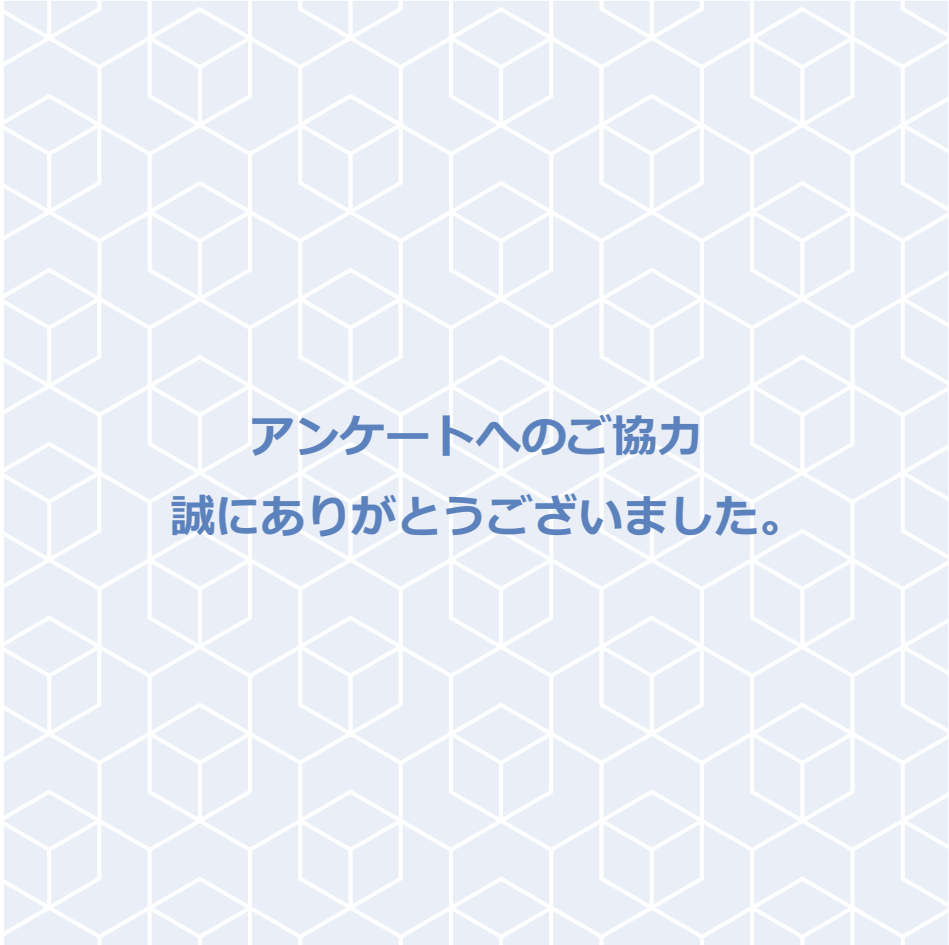
伝統芸能を続ける人を応援してもらえる正規雇用制度があれば今後に繋がると思います。(伝統芸能／教育研究)

芸術活動は今回のような事態に陥ると、閉塞感から作品が縮まります。また先が見通せない不安感は孤立を生みます。地域コミュニティの関心が支えとなりますので、誰もが簡単にわかる宣伝と配信方法を検討いただきたいです。(文学／教育研究)

この度の緊急奨励金の創設、行政が文化芸術の領域に対して支援策を講じることは素晴らしいことで、京都市民であることを誇りに感じました。(生活文化・国民娯楽 教育研究)

バレエ、ダンス、演劇、オペラなどのイベントが始まらないことには、アーティストはいてもイベントを支えるサポートスタッフ業界は潰れるしかありません。(デザイン・建築・ファッション／技術提供)

法人格のない任意団体が使えるコロナ関連の支援がほとんどないので、何とかしてほしい。(映画・漫画・メディア芸術／企画制作)



**アンケートへのご協力
誠にありがとうございました。**

問合せ先

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課

〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地

Y・J・Kビル2階

TEL : 075-366-0033

FAX : 075-213-3181

京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)

TEL : 075-213-1000

E-mail: kyoto_art_support@kac.or.jp